

## 連携自治体紹介シート

自治体名	長野県小諸市
自治体の概要	<p>所在地：長野県小諸市相生町3-3-3 面積：98.55 km<sup>2</sup></p> <p>○人口動態 2007年以來自然減。ただし、2020年から社会増が続く。 人口：41,649人 世帯数：19,080（令和4年10月現在） 人口密度：422.6人/km<sup>2</sup> 1世帯あたり平均人口：2.18人</p> <p>○主な産業 全体面積の約4割を農地が占めるため、農林業従事者の割合は、全国平均よりも高い。冷涼な気候と物流環境、災害リスクが低いことから製造業の割合が高い。健康分野だけでなく、産業、環境、財政運営など様々な分野の健幸を実現するウェルネスシティを目指しています。</p> <p>産業別就業者の割合（全国） 第一次産業 9.5%（3.5%）、第二次産業 29.6%（23.7%）、 第三次産業 60.9%（72.8%）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
アクセス方法	<p>①鉄道：北陸新幹線（東京⇄軽井沢）-しなの鉄道（軽井沢⇄小諸） 所用時間：約90分 片道運賃：¥6,520/人</p> <p>②バス：バスタ新宿⇄小諸駅 所要時間：約180分 片道運賃：¥2,650/人</p>
主な特色 PRポイント	<p>小諸市は、長野県東部に位置し、浅間山の南麓に美しい農村風景が広がり、小諸城址懐古園や北国街道の宿場町として、商家など古い町並みを残す詩情あふれる高原の城下町です。近年では、多種多様な農産物が育まれる小諸の風土にほれ込み、カフェやベーカリー、レストラン、農業、ワイン造りをはじめ移住者も増えています。</p> <p>また、千曲川沿いの標高600mから高峰高原の2000mまでの標高差は、高地トレーニングの適地として、トップアスリートからも好評です。高峰高原や御牧ヶ原台地は、まち明かりの影響を受けにくいので星空は美しく、雲海の先に富士山や八ヶ岳、北アルプスを望む絶景をみることができます。</p> <p>四季折々の景色や様々な体験、貴重な出会いが訪れる人々を魅了します。</p>

## 連携自治体紹介シート



さくらの名所 100 選の小諸城址懐古園



高峰高原から望む星空と雲海

### 主な地域課題

浅間山の南麓に広がり、日照時間が長く、降水量が少ない（東京の半分程度）昼夜の寒暖差が大きい気候風土は、水稻、高原野菜や果物の生産に適していますが、傾斜地が多く、単位面積あたりの作業効率は決して高くありません。そのため、小規模零細農家が多く、高齢化も進んでいます。

そこで、水稻は生産量ではなく品質を追求し、米農家のオリンピックといわれる米食味分析鑑定コンクールで最高賞受賞者を何度も輩出するようになりました。また、長野県内のワイナリー数は 70 を超え、新進気鋭の醸造家や栽培家が集う千曲川ワインバレーは、日本でも最も注目を集めるワイナリーの集積地です。国内外の品評会や来賓に提供されるワインを製造するマンズワイン（港区）が半世紀にわたってこの地域のワイン造りをリードしてきました。耕作放棄地を再生し、ワイン用ぶどう栽培支援を行うことで、2017 年まで 1 か所だった市内のワイナリー数は、2023 年に 6 つになりました。

高品質の小諸の農産物や農風景を後世に残すために、komoro agri shift プロジェクトを立ち上げ、「つくる農」から「つなぐ農」への転換を進めています。美しい農風景の中で、農作業等を手伝っていただくことで、農家や小規模ワイナリーは働き手の確保ができ、体験する側は、モノづくりのリアルを体感し、より深く商品を理解することができます。実際に、オリジナルワインプログラム（中棚荘）は、ぶどうの苗木の定植、タンク洗浄、収穫など年 12 回に分けてワイナリーの 1 年間を体験するプログラムを実施しています。

わたしたちは、都市と農村がつながり、相互の交流が生まれることを目指しています。